やぐもだい

令和７年１１月２８日
調布市立八雲台小学校
校長　石川　淳
http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/

「みのりのとき」

校　長　石　川　淳

人の幅を広げるきっかけの一つに、「旅にでること」があると言われます。これを子供たちの成長にあてはめてみると「旅にでること」は、日常と違うことや体験をして「こんな世界があったのか、まったく様子が違う」と実感し、自分の中の世界観を広げていくことではないかと思います。学校では、行事が「旅」にあたります。今、八雲台小の子供たちは、学習発表会の旅から「やり遂げること」を得て帰ってきて、次の旅を心待ちにしています。展示発表では鑑賞する相手の姿を想像しつつ制作し、舞台発表では表現方法や演出を工夫し、担当する役割に挑むことによって、非日常の世界を体験する旅です。

子供の成長において、「できないからやらない」「うまくいかないに決まっているのだから面倒くさい」方を選択すると、その場はそれで通り過ぎます。しかし、その子は内心不安な気持ちにとらわれて旅への一歩を踏み出せないでいるのかも知れません。ここで身近な大人の出番です。「だめ、やりなさい。」と強く出ることもできますが、その子の不安を一旦受け止め、「そういうことあるよね。でも、だめでもともとと言うじゃない、できるところまでいいのだからやってごらんよ」と励ましの声かけをすると、子供の心がひらきます。たとえ実際にうまくいかなくてもいいんだ、挑戦したということを認めてくれている人がいるんだと感じると安心します。そして、次があるからまたがんばろうという意欲や、失敗があるから成功につながることを学んでいきます。つぎの旅に出たくなる原動力です。

「小さいころは神さまがいて不思議に夢をかなえてくれた」という歌詞がありますが、大人になるにつれ、だんだん困難なことが多くなってきます。その時に、「できなさそうにも見えるけれど、挑戦してみる」という気力を湧かせるには、小学生の時にたくさんの励まされた経験と安心した記憶が必要です。

みのりのとき ― 以前に種を蒔き、もてる力を頼りに旅にでて、見ること聞くこと感じることを広げてまたホームグラウンドに帰ってくる ― 行事や活動を終えて旅から帰ってきた子供たちを、保護者や地域の皆様にも迎えていただき、成長ぶりを見届け、結果の如何に関わらず、踏みだせたことそのものを賞賛していただければと思います。

※歌詞 ： 荒井由実（松任谷由実）「やさしさに包まれたなら」1974年

コミュニティスクールコーナー

１１月１５日（土）に第５回の学校運営協議会が行われました。委員の皆様に学習発表会を鑑賞していただきました。展示発表・舞台発表・音楽発表のどの発表も素晴らしく、「子どもたちの頑張りが見えました。」、「先生方の日々のご指導もありがとうございました。」との感想をいただきました。１２月５日に第６回が行われます。１・２年生とわかあゆ学級の道徳授業を参観していただきます。